

経営比較分析表（平成30年度決算）

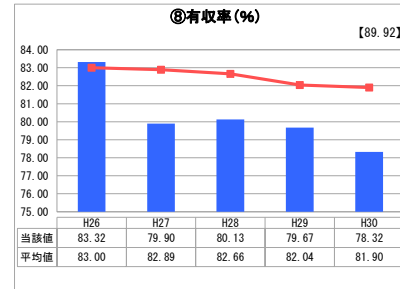
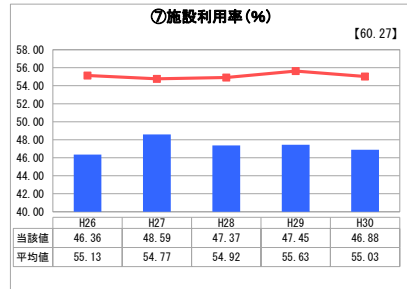
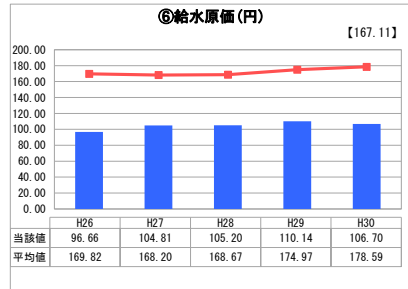
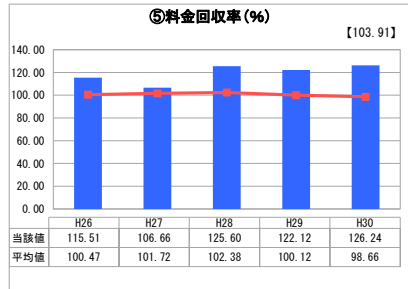
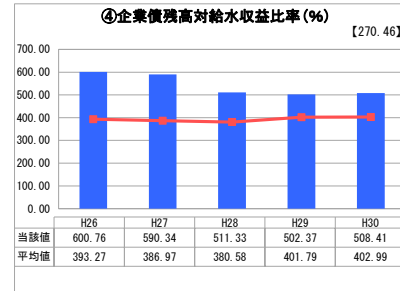
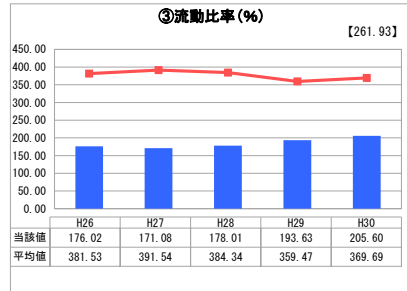
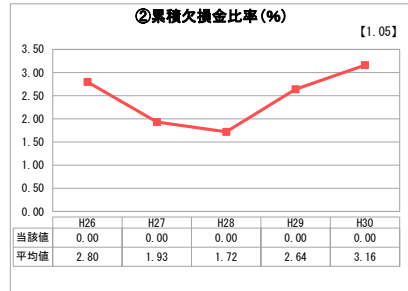
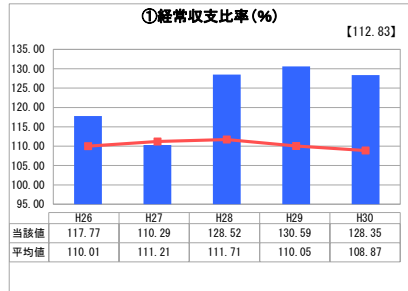
高知県 四万十市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客産料金(円)	
-	46.40	73.18	2,345	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
34,001	632.29	53.77
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
24,707	22.50	1,098.09

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
【分析】毎年、黒字経営が継続できており、経常収支比率は、ほぼ類似団体である。

② 累積欠損金比率 累積欠損金なし
③ 流動比率
【分析】類似団体と比較すると流動比率は低いが、流動比率100%以上、資金残高の増を維持している。

④ 企業債残高対給水収益比率
【分析】企業債の発行の抑制により残高は年々減少しているが、給水収益の減により、企業債残高対給水収益比率は増となった。

⑤ 料金回収率
【分析】類似団体と比較しても良好であり、100%以上が継続できている。

⑥ 給水原価
【分析】給水原価は、類似団体と比較しても安価で推移している。

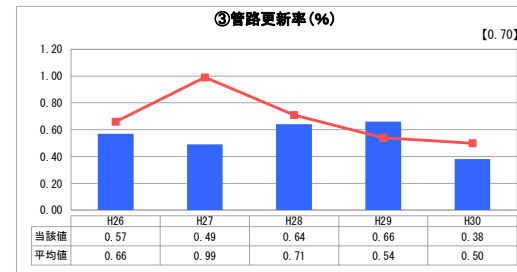
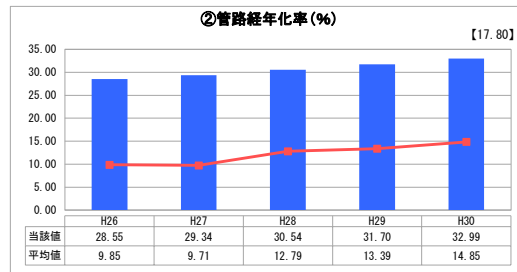
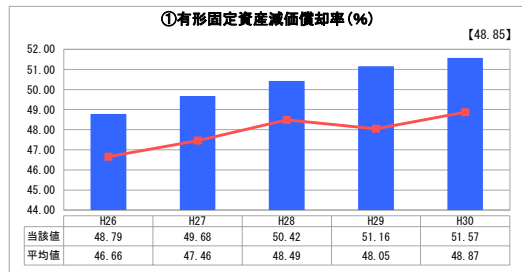
⑦ 施設利用率
【分析】類似団体と比較し施設利用率は低い。今後も配水量の減少傾向は継続するものと考えられ、施設の更新時には適正規模の検討が必要である。

⑧ 有収率
【分析】配水管の破損事故が多く、有収率が低下した。今後も漏水調査を実施することで、漏水の早期発見・修理を行い、有収率の向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
② 管路経年化率
③ 管路更新率
【分析】法定耐用年数を超えた老朽管の割合が増え続けており、より計画的に布設替工事を実施する必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

1. 基幹管路の耐震化
2. 法定耐用年数を経過した老朽管への対応
3. 給水人口・有収水量の減少に伴う給水収益の減少
4. 簡易水道事業との統合
など水道事業を取りまく環境は厳しく、課題は山積んでいます。その課題に取り組みつつ、水道事業の安定経営を継続することができるよう平成28年4月に水道料金の増額改定を行いました。これにより、過度に企業債に依存することなく、緊急性の高い『基幹管路の耐震化工事』などに積極的に予算配分することができるようになりました。今後も水道事業の安定経営に留意しつつ、『災害に強い水道』をつくることのできるよう取り組んでまいります。